

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》吉田 繁

【概 要】

分子生物学的解析技術の急速な発展により様々な病態が染色体あるいは遺伝子レベルで解析されている。単一遺伝子疾患のみならず、生活習慣病など環境因子と遺伝因子が関係する疾患の罹患性や薬物動態に係る遺伝子多型、感染症の原因微生物やがん細胞の検出などの遺伝子・染色体検査が臨床検査へと導入されている。現代医療において疾患の診断や治療方針の選択に遺伝子や染色体の情報は必要不可欠となり、臨床検査学領域においても遺伝子・染色体検査の役割がこれまで以上に重要となっている。本講義では、臨床検査技師に必要とされる遺伝子や染色体の構造や機能、ならびに検査方法の原理や疾患への応用を学び、遺伝子・染色体検査の意義を理解する。

【学習目標】

- 1) 遺伝子・染色体検査の意義を理解するために、遺伝子と染色体の基礎や検査方法の原理と応用に関する知識を身につける。
- 2) 細胞、遺伝子、染色体の構造と機能を説明できる。
- 3) 核酸の複製と転写、翻訳を説明できる。
- 4) 検体を取り扱う場合の一般的注意事項を理解し説明できる。
- 5) 遺伝子検査の基礎的な技術を理解し説明できる。
- 6) 各種疾患分野で用いられる遺伝子検査の方法と役割を理解し説明できる。
- 7) 染色体検査の方法と原理を理解し説明できる。
- 8) 各種疾患と遺伝子・染色体検査結果との関係を説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	細胞の構造と機能	・細胞の構造と細胞周期 教科書：1～11ページ	吉田 繁
2	遺伝子の基礎1	・核酸の構造と代謝 教科書：21～24ページ	吉田 繁
3	遺伝子の基礎2	・核酸の複製と転写、翻訳 教科書：25～36ページ	吉田 繁
4	遺伝子検査の基礎技術1	・検体の取り扱い方法 ・核酸抽出、核酸増幅の技術 教科書：55～75ページ	吉田 繁
5	遺伝子検査の基礎技術2	・核酸検出の技術 ・遺伝子検査の精度管理 教科書：76～89ページ	吉田 繁
6	遺伝子検査の基礎技術3	・遺伝子工学 ・ゲノミクス、プロテオミクス ・バイオインフォマティクス 教科書：91～100ページ	吉田 繁
7	遺伝子検査技術の応用1	・感染症の遺伝子検査 教科書：101～113ページ	吉田 繁
8	遺伝子検査技術の応用2	・白血病の遺伝子検査 教科書：114～120ページ	吉田 繁
9	遺伝子検査技術の応用3	・固形腫瘍の遺伝子検査 教科書：121～125ページ	吉田 繁

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
10	遺伝子検査技術の応用4	・ 遺伝性疾患、生活習慣病 ・ ファーマコゲノミクスの検査 教科書：126～145ページ	吉田 繁
11	遺伝子検査技術の応用5	・ 個人鑑別、遺伝医療 ・ 倫理 教科書：146～167ページ	吉田 繁
12	染色体の基礎	・ 染色体の構造 教科書：11～19ページ	吉田 繁
13	染色体検査技術1	・ 染色体の検査法 教科書：169～180ページ	吉田 繁
14	染色体検査技術2	・ 染色体検査技術 教科書：181～200ページ	吉田 繁
15	遺伝子・染色体検査のまとめ	・ 遺伝子検査と染色体検査の結果の評価 教科書：201～216ページ	吉田 繁

【評価方法】

定期試験 80% 小テスト 20%

【備考】

教科書：宮地勇人 編集「標準臨床検査学 遺伝子検査学 第1版」医学書院 2013年

参考書：池内達郎 編集「最新 臨床検査学講座 遺伝子・染色体検査学 第1版」医歯薬出版 2015年
有波忠雄 編集「メディカルサイエンス 遺伝子検査学」近大出版 2012年

その他：講義資料を配布する。
クリッカーを使用した双方向授業を行う。
確認のための小テストを行う。

【学習の準備】

予習は、次回の授業範囲の教科書を読んでおくこと。（80分）

復習は、教科書や配付資料、小テストを活用し学習を深めること。（80分）

【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

【実務経験】

臨床検査技師

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での経験を活かし、検体採取から結果の解釈までに関する基本的知識を講義する。